

茅ヶ崎セントラルクリニック 守谷 広美

功 績	患者さんを理解し、生活環境を整備することで安定した透析治療につなげた功績
推 薦 者	花岡 美奈子
推 薦 理 由	患者さんの生活環境の整備が「活き活きとした人生」を支援し、また安定した経営につながる事を体現した行動力に対して、理事長賞に推薦します。

内 容

氏名：A氏、年齢：75歳、性別：男性、透析導入年：平成20年

家族構成：独居※親族とは音信不通、症例：糖尿病性腎症、認知症

A氏は当クリニックでの透析導入当初、元々の自由奔放な性格と軽度の認知症を発症していることから、決められた時間に来院せず、また内服管理も出来ていない状況でした。

透析治療を受けないとお亡くなりになってしまう事から、その都度、守谷を中心に自宅までお迎えに行くのですが、いないことも度々、限られた人員の中では非常に厳しい対応を迫られておりました。

透析治療中にA氏に「どうしたらええんかの?わしわからん。」という一言から、守谷は本人が一番苦しんでいると理解し、在宅のサポート体制の整備が今すべき問題点と考え、包括支援センターへ協力を依頼しました。当初ご本人やご家族ではない者からの申請という事もあり、当初は難色を示していた介護支援員も幾度となく相談に来る守谷の患者さんを助けたいという熱意に打たれ、徐々に理解を示し、まずは通院サポート、ゆくゆくは施設入所に向けて段取りを組んでくれるようになりました。

一方で、本人への介護保険サービスの利用を理解していただくことが一番難航しました。管理されることへの反発と拒否の連続、その都度、守谷が傾聴と説明にあたっておりました。そのうち「あんた、来たのかね?」と声を掛けてくださるようになり、「あんたの言う事なら聞くわ」と言っていただけるまでに信頼関係を結ぶ事が出来ました。生命の危険、日常生活の管理の重要性、介護サービスの利便性を丁寧に説明すると「そうじゃの。わかった。頼むわ」と短い言葉ではありますが、理解していただけるようになりました。

今では、無事施設に入所し、結果、血圧は安定し、内服も管理されるようになりました。認知症の周辺症状も表れることなく、決められた時間に透析治療を受けていただいております。

クリニックの看護師という視点だけでなく、その患者さんを支える地域医療の職員という視点から患者さんの生活環境を整備することで「生き生きとした人生」を支援し、その行動力とサポートがクリニックの安定した経営につなげている事例だと思えます。